

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	東白川村	学校名	東白川村立 東白川小学校				
校長名	堀部 昇	対象学年	全学年	人数	80	人	
活動名	6山制覇 全校登山		時間数	5	時間	継続年数 31	年
題材	エリ 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [村内の主要6山] 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [] 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [] 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] エリ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [縦割班単位で登る] エリ その他（6年かけて6つの山を制覇し、自信と誇りをもつ） [6山制覇記念メダル]						
複数年継続するための工夫改善	6年かけて主要6山を登るため、各山常に登山道が整備されているわけではない。毎年ルートの開拓、登山道の整備や仮設トイレの設営、安全確保など、計画から当日の運営に至るまで、教職員はもとよりPTAの全面的な協力を得て実施している。登山道整備には行政のバックアップもあり、文字通り村をあげての行事となっている。また、今年度から愛知県の森林ボランティア団体「NPO里山わくわくクラブ」も登山道の整備に加わっている。						
<p>1 ねらい 縦割り班で助け合い励まし合いながら村内にある主要6山を6年かけて順番に登ることを通して、ふるさと東白川のよさを体感し愛着をもつと共に、やり遂げた喜びを味わい自信と誇りをもつ。</p> <p>2 活動の概要 毎年春に村内にある主要6山（捨薙山 [すてなぎやま]、手掛岩山 [てがけいわやま]、寒陽気山 [かんようきざん]、尾城山 [おしろやま]、新巢山 [しんすざん]、無反山 [むそれやま]）を順番に登る学校行事で、子どもは6年間で6山を制覇することになる。本年度で31回目を迎え、6巡目の初年となった。縦割りグループを編成して上級生が下級生を気遣い励ましなが、下級生は上級生の指示に従って山頂を目指す。頂上には学年・名前を記した「ケルン石」を置いてくる。そこには6年前、12年前…のケルン石もある。この行事を通して上級生はリーダーとしての自覚を強め、入学間もない1年生は小学生としての自覚を深めるなど、子ども達の心を大きく成長させる。6つの山を制覇したら校長の手作りの記念メダルが贈られる。記念メダルを手にするのは児童だけでない。毎年、保護者や教職員からも6山制覇達成者が出ている。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子 この行事には子どもだけでなく、保護者や地域の方々も参加する。中には村外に出て行った出身者がわざわざ参加することもある。保護者の中には小学生の時に登り、大人になってから2巡目3巡目を目指す人もいる。また、全校登山を行うために、地域の方々の全面的な協力を得ている。前年度の内から地域の方の案内で何度も下見を行い、危険箇所を把握したり最善のルートを選定したりしている。行政は予算を組み、森林組合が危険な箇所の補修を行う。また、山の地権者もトイレの設置や駐車場の提供などを快く受け入れてくださっている。登山直前にはPTAの役員による登山道の整備を行い、万全の体制で当日を迎える。このように地域の方々に支えられ地域に深く根付いた行事となっている。今年度から愛知県の森林ボランティア団体「NPO里山わくわくクラブ」も本校の全校登山を知り、登山道の整備に加わり当日も参加していただいた。次年度以降も引き続き協力を申し出ていただいている。</p> <p>4 活動を通しての児童生徒の変容 児童は学校の裏山で縦割り班で登山の練習をしたり、登山後に友だちの良さを交流したりして人間関係を深めている。子ども達の意識の中に全校登山で培われた自信と誇り、ふるさとに対する愛着は深く根付いている。 以下は今年度6年生女子児童が「少年の主張大会」で発表した文の一節である。 「・・・今年度は、小学校最後の登山でしたが、インフルエンザで参加できませんでした。でも、『やりきりたい』という気持ちで、休日に家族と一緒に、捨薙山にのぼってきました。あきらめず、自分ができる限りやりきると、とても気持ちよかったです、自信にもつながりました。やりきってよかったですと思います。・・・」 本校の児童にとって「6山制覇」は大きな目標であり憧れである。休んでも後日登ったこの児童にとって「6山制覇」は大きな自信につながった。</p>							